RITSUMEIKAN UNIVERSITY

DMUCH
Institute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

立命館大学
歴史都市防災研究所

Institute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

世界中の文化遺産の多くが災害の危機にさらされています

津波で被災した寺院（2011年，宮城県東松島市・長音寺）

震災で倒壊した寺院の屋根（2016年，熊本・益城町）

震災で破壊された中世のまちなみ（2016年，イタリア・アマトリーチェ）

洪水で浸水した寺院（2011年，タイ・アユタヤ，Tourism Authority of Thailand 提供）

地震災害について見れば、環太平洋やヒマラヤの造山帯など、地震の多発地帯に重なるようにたくさんの世界遺産が分布しています。

文化遺産とそれを取り巻く歴史都市を災害から守るための活動は、世界的に見ても重要な課題となっています。

出典

益田兼房、金玟淑、メンドサ島田オルガ恵子、板谷直子、李明善
「地震帯における世界文化遺産の危機に関する国際的認識の重要性」
歴史都市防災論文集 Vol.3（2009年6月）

世界遺産と地震帯の分布図（2008）（●：地震、●：文化遺産及び複合遺産、●：自然遺産）

研究所の目指すもの

■ 歴史都市防災研究とは

地域に根ざした文化遺産とこれを取り巻く歴史都市は、長い時間をかけて醸成されてきた人々の文化的活動の結晶であり、ひとたび失うと二度と再生できません。この先人たちから受け継いだ文化的価値を維持しながら、人命とともに災害の脅威から守り、次世代へと受け渡していくことは現代を生きる私たちの責務です。

文化遺産や歴史都市の持つオリジナリティを損なわずに、地域に根ざしたコミュニティや伝統ある地域資源を活かした防災・減災に取り組むためには、これまで別々に取り組まれてきた人文社会学における文化の保全にかかわる分野と、理工学における人間社会を災害から守る分野を融合してゆく必要があります。アーカイブ等の情報技術を駆使する立命館大学アート・リサーチセンター等とも連携しつつ、国内外の人材と研究プロジェクトが集うプラットフォームを構築しています。

■ ハブとなる拠点形成へ

私たちは、文化遺産の宝庫とも言うべき京都・滋賀・大阪を拠点として、2003年の歴史都市防災研究センター設立以降、文部科学省21世紀COEプログラム、同グローバルCOEプログラム等の外部資金を積極的に獲得しながら、文理を融合させた研究活動を行ってきました。2006年10月には、当時のセンターにユネスコ・チェアが設置されたことを機に国際研修を開始し、国際的な文化遺産防災学のネットワーク・ハブとしての役割も果たしてきました。2013年4月には永続的に活動推進するために「歴史都市防災研究所」を設立し、文化的で安全な社会の発展に貢献するための方策を国内外に提供できる教育研究のための拠点形成を目指しています。

■ 研究・教育による社会貢献

私たちは、企業と共に伝統に学びつつ新たな技術開発に取り組み、地域コミュニティや行政、NPOなどと共に、歴史的町なみや文化遺産の防災計画づくりを進め、NGOやユネスコをはじめとする国際機関と協働して世界遺産の危機管理に取り組むなど、産官学のネットワークを活かした実践的活動を進めてまいります。「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する歴史と伝統の研究、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と研究発展を担う若手研究者の輩出を通して、社会貢献へ向けた機能を発揮できる教育研究環境を確立していく所存です。

皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

歴史都市防災研究所所長
大窪 健之

歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点

特色ある研究

■ 災害と地域社会の歴史に学ぶ

過去の災害とその社会的対応に関する史資料の収集、聞き取りに基づいた地域の「記憶の地図」の作成、歴史的災害を多面的に理解する時空間的GISの開発など、歴史文化都市の災害史を紐解き、将来の減災に向けて継承すべき地域の知を明らかにします。

歴史都市京都の安心安全3Dマップ（3次元ハザードマップ）

■ 歴史的まちなみを守る技術を開発する

歴史文化都市において、伝統的な知恵と地域の歴史・文化を生かした耐震補強・改修技術や防耐火システム・機器の開発、地域の地盤環境を踏まえた防災対策の開発のもと、「歴史・文化・意匠的価値」と「防災性能」を兼ね備えた防災技術の確立を目指しています。

下屋付き部分2階建て伝統木造住宅の実大振動台実験（2012年, E-defense）

■ 文化遺産への人災・獣害を防ぐ

仏像・美術品の盗難、歴史的建造物への放火、アライグマによる社寺への侵入被害など、文化遺産への人為的災害と獣害の発生する状況を体系的に調査し、有効な対策や文化遺産を見守る先進的な防御システムを開発します。

アライグマによる爪痕被害（写真提供：関西野生生物研究所）

■ 歴史文化都市の防災をデザインする

歴史を受け継ぐ地域に合った防災計画とこれを推進する政策を提案します。地域特性の分析と最新の減災技術を活かしつつフィールドでの実践を通して、地域環境・地域社会の未来のデザインに貢献します。

清水寺と周辺地域の防災水利計画図（写真提供：清水寺）

■ 国際社会に貢献する

ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」として認証された国際研修・研究ネットワーク形成事業を通して、途上国の文化遺産に関する危機管理の能力を高める教育プログラムの開発研究や海外をフィールドとする文化遺産の災害調査研究を進めています。

パタン王宮広場での部材復旧作業（2015年, ネパール・カトマンズ）

特徴的な活動

学術分野

学術分野での研究交流

❶学術分野での情報発信

年次事業として「歴史都市防災シンポジウム」の開催や、査読付き学術論文集である「歴史都市防災論文集」・「京都歴史災害研究」、研究所紀要として「年報」を毎年発行しています。

❷ホームページでの情報発信

ホームページを通じて研究所の活動内容や所蔵資料の紹介、研究成果の発信を行っています。

❸他の教育研究機関との協働

日本文化をデジタル技術で解析し、新たな人文学を追求する本学アート・リサーチセンター等の教育研究機関と協働し、文化の継承と保全、維持と活用のための分野を越えた研究活動を展開しています。

国 際

国際社会への支援

❶立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（直轄事業）の実施

文化遺産防災の分野における世界初のユネスコ・チェアとして2006年に認定されました。国境を越えた知識の交換と研究成果に基づく国際協力の促進を目的としたユネスコの取り組みとして、10年間で延べ100名以上の修了者を輩出してきました。今後も継続し、毎年10名程度の研修生の輩出を目標としています。

❷途上国を中心とする文化遺産防災教育への支援

インドネシア政府研修として、現地の行政官を招聘し、京都・滋賀・大阪での都市・地域計画における教訓や好事例を講義、議論、現地調査を交えて3週間にわたり研修を行っています。

国 内

国内社会における教育

❶「文化遺産防災」関連講義と教科書出版

「文化遺産保全継承論」や「歴史都市災害史」、「文化遺産防災計画論」、「文化財防災学特論」等の講義や、そのリソースを集約した教科書「テキスト文化遺産防災学」も出版しています。

❷「文化遺産防災学 教育プログラム」の運営

上記講義を含め、大学院生や学外からの科目等履修生が参加可能な、履修証明制度を利用した分野横断型の教育プログラムとして実施しています。市民や、他大学を含む国内学生、実務家である社会人学生に対して広く「文化遺産防災学」に触れる機会を提供し、当該分野の裾野の拡充と発展に貢献しています。

地 域

地域社会への実践的貢献

❶地域社会との連携

地域コミュニティによる自主防災組織や、「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」などの団体と連携し、実践的な地域貢献を進めています。

❷「地域の安全安心マップコンテスト」の開催

小学生が自宅周辺や学校周辺などの身近な地域を調査し、それを地図化することで、地域の安全安心について考え、保護者や小学校と情報を共有することを目的に、2007年より毎年実施しています。優秀作品の中から、国土交通省国土地理院主催「全国児童生徒地図優秀作品展」にて審査員特別賞が選出されるなど、社会的にも高い評価を受けています。

■ 拠点形成の4つの柱

研 究

- 2つのCOEプログラムと3年間の拠点形成支援を基軸に研究プロジェクトを継続・展開
- 歴史都市防災シンポジウム等による研究成果の学内外への発信、成果物の刊行

教 育

- 文化遺産防災教育プログラムなどによる大学院生等若手研究者の育成
- ユネスコ・チェア国際研修など国内外での研修による即戦力となる実務家育成

社会連携

- 「安全安心マップ」活動など社会と連携した事業・研究プロジェクトの推進
- 国内外の実践的な防災事業への積極的関与、提言

情報発信

- 事業・研究にかかわる史資料・地理情報などの収集およびアーカイブ化
- 研究成果や事業内容、所蔵資料の一般市民に向けた公開展示

研究所 外観

展示ルーム … 様々な企画展を常時開催しています。112㎡。

沿革

2003年4月	21世紀COEプログラム採択（2007年度まで）
2003年8月	歴史都市防災研究センター設置
2004年4月	格到小学校に拠点設置
2005年1月	国連防災世界会議（神戸） テーマ別および公開フォーラムの事務局を担当
2005年4月	学術フロンティア事業採択（2009年度まで）
2006年3月	歴史都市防災研究センター竣工
2006年6月	歴史都市防災シンポジウム開始（年次事業）
2006年10月	ユネスコが立命館大学ユネスコ・チェアを認定 立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」 国際研修開始（年次事業）
2007年9月	地域の安全安心マップコンテスト開始（年次事業）
2008年4月	グローバルCOEプログラム採択（2012年度まで）
2009年5月	文化遺産防災アイデアコンペティション開始（2012年度まで）
2013年4月	歴史都市防災研究所に改組
2014年4月	トヨタ財団による国際研修事業の支援開始（2016年度まで）
2015年3月	国連防災世界会議（仙台） パブリックフォーラムを主催

組織

所長	大窪 健之（理工学部 教授）
副所長	鈴木 祥之（衣笠総合研究機構 教授） 花岡 和聖（文学部 准教授）

地下カンファレンスホール … 研修や研究会を行っています。115㎡。

案内図

■JR・近鉄京都駅から
◎市バス50にて42分、快速205にて36分、
「立命館大学前（終点）」下車
◎市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
◎JRバスにて30分、「立命館大学前」下車

■JR円町駅から
◎市バス快速202/快速205にて8分、
「立命館大学前（終点）」下車
◎市バス15にて10分、臨にて9分、
「立命館大学前（終点）」下車
◎市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
◎JRバス高尾・京北線にて8分、「立命館大学前」下車

■阪急電車西院駅から
◎市バス快速202/快速205にて15分、臨にて17分、
「立命館大学前（終点）」下車
◎市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

■京阪電車三条駅から
◎市バス12にて53分、市バス15にて34分、
市バス51にて36分、「立命館大学前（終点）」下車
◎市バス59にて40分、「立命館大学前」下車

表紙写真注釈
［左上］清水地域の市民消火栓（京都市事業）　［右上］元治元年（1864年）京都での大火（どんどん焼け）の瓦版
［左下］立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修の様子　［右下］清水寺構造解析

立命館大学 歴史都市防災研究所
〒603-8341 京都市北区小松原北町58番地　TEL: 075-467-8801 FAX: 075-467-8825
http://r-dmuch.jp/